

# 自己の生き方についての考えを深めることができる児童の育成

— 議論し、探究するプロセスを重視した授業構想に基づく道徳科指導の工夫を通して —

平成29年度 前橋長期研修研究員 久保 結花

## 研究の着眼点

道徳授業  
の課題

- ・何を学ばせようとしているのか児童にも理解させた上で、振り返らせる指導が不十分。  
(今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告) H25.12)
- ・読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導。  
(道徳に係る教育課程の改善等について(答申)H26.10)
- ・児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業。  
(道徳に係る教育課程の改善等について(答申) H26.10)

特別の教科  
道徳

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、  
「議論する道徳」へと転換を図る。  
(学習指導要領改正 H27.3)

指導方法  
例示

質の高い多様な指導方法の例として「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を例示。  
\* 組み合わせた指導を行うことも可能  
(「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告) H28.7)



道徳的な課題について議論し、探究するプロセスを重視した授業構想に基づき、授業改善を行うことが重要であると考えました。なぜなら、児童にとって、主体的に学びやすく、道徳授業の課題の改善にもつながると考えたからです。また、質の高い多様な指導方法も取り入れた授業を行うことで、より充実した授業を行うことができると考えました。

## 議論し、探究するプロセスを重視した授業構想

道徳的な課題について議論し、探究するプロセスを重視した三つの過程からなる授業を構想します。また、道徳科の授業で重要な「自分との関わりで捉えること」「多面的・多角的に考えること」を大切にしました。それぞれの過程では、過程のねらいに迫るための指導の工夫を取り入れます。



指導の工夫については、  
次ページをご覧ください。

過程		ねらい
導入	自分との関わりで捉える	自分との関わりで道徳的な課題を捉えることができるようにする。 <b>学習課題の設定</b>
展開前段	多面的・多角的に考え、話し合う	道徳的価値について多面的・多角的に考え、話し合うことを通して、学習課題を解決できるようにする。 <b>学習課題の解決</b>
展開後段 ・ 終末	自分との関わりで振り返る	解決した学習課題の視点から、自分を振り返ることができるようにする。 <b>自己の深まり</b>

導入で、学習課題を設定することで、展開前段における話合いの目的を明確にもち、学習課題を解決するための話合いに主体的に臨むことができます。

学習課題を再度問い、話合いを通して学習課題の解決を図ります。また、自分との関わりで振り返る過程において、自己を見つめる視点となります。

授業実践を通して、自己の生き方についての考えを深めることができる児童の育成を目指します。

導入

自分との関わりで捉える

【手立て1】課題設定の工夫（話し合いを通して問題意識を高め、学習課題を設定する）

日常の自分の体験や気持ちを具体的に想起させる話し合いを通して、自分との関わりで問題意識をもたせ、**学習課題の設定につなげます。**

【自分との関わりで問題を捉えるための問い】

- ア 読み物教材と同様の場面を想定する問い  
（読み物教材の場面が身近にある場合）  
例 読み物教材と同様の役割演技をさせ、「この行動のとき、どんな気持ち？」
- イ 児童の日常生活での体験に置き換える問い  
（読み物教材の場面が身近にない場合）  
例 「物事のどちらかに決めなくてはならなくて迷ったことはある？」

【ポイント】

児童にたくさん発言させることで、道徳的価値に対する考え方や捉え方は様々であることに、児童自身で気付かせます。

学習課題の設定

例 決断するとき大切にしたいものは、何だろう？

【手立て2】課題解決の工夫（話し合いを通して学習課題について探究し、解決する）

児童の発言を問い返し、多面的・多角的に考えさせる話し合いを通して、考えを広げたり深めたりすることができるようにし、**学習課題の解決につなげます。**

【多面的・多角的に考え、話し合うための問い返し】

- ア 具体を促す問い返し（発言が抽象的なとき）  
例 「そのことについて、もう少し詳しく話して」「例えば、どんなことなの？」
- イ 再考を促す問い返し（発言が表面的なとき）  
例 「どうしてそう思うの？」「本当にそう？（自分だったらどう？）」「さっきはこんな発言があったよね」
- ウ 比較を促す問い返し（発言が一面的なとき）  
例 「この二つの考えは同じ？（違う？）」「どこが同じ？（違う？）」
- エ ねらいに迫る問い返し（発言が本質的なとき）  
例 「この考えを基に考えてみよう。」

探究

【ポイント】

話し合いの中で、児童の発言のどこを問い返すか判断するためには、教師が、学ばせたいことを明確にしておくことが重要です。

話し合いを通して、児童の言葉で、ねらいとするものを導きます。

学習課題の解決

例 自分の心にうそをついていないことが大切だと思います。



展開前段

多面的・多角的に考え、話し合う

【手立て3】振り返りの工夫（個の振り返りを全体で共有し、より深く自己を見つめる）

解決した学習課題と照らし合わせて、自分を振り返らせます。また、一人一人がワークシートに書いて振り返ったことを基に、集団で共有することで、**より深く自己を見つめさせます。**

【意図的指名による振り返りの共有】

- ア 本時の話し合いの過程から自分を見つめている児童  
例 「自分は初め、こんなふうに考えていたけれども、みんなと話し合ったら、他の考えもいいなあと思った。」「話し合ってみただけでも、〇〇については自分はよく分からないままだった。これからも考え続けてみようと思う。」
- イ 日常生活を基に自分を見つめている児童  
例 「自分は今までこんなふうに行動をしていた。みんなと話し合っ、他の行動や考えがあるんだと思った。これからは、～のように行動してみたい。」

【ポイント】

個でワークシートに書いて振り返る時間をしっかり確保し、机間指導で記述を見取り、共有させます。

自己の深まり



自分は、今日の授業でこんな考えをした。これからも考え続けてみよう。話し合ってよかったな。

展開後段・終末

自分との関わりで振り返る

**実践編 2** 6学年「言葉のおくり物」(文部省読み物資料)

主題 「よりよい仲間」 [ B-10 友情、信頼 ]  
 ねらい 周囲の人間の行動や心情について考えることを通して、友達と信頼し合い、磨き合い、高め合うような、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていこうとする意欲をもつことができる。

教材：ささいな行動から男女の仲を冷やかされるようになった一郎とすみ子。一郎はそれをさけるためすみ子に冷たい態度をとるようになるが、すみ子は堂々としている。そんなある日の帰りの会。一郎の誕生日を祝う場面ですみ子も手を挙げる。一瞬クラス全体がしんとするが、すみ子はみんなに「今までの仲のよかったクラスにもどろう」と話す。クラスのみんから拍手が起こる。

**【手立て1】課題設定の工夫 (話し合いを通して問題意識を高め、学習課題を設定する)**

自分との関わりで捉える  
 導入 (5分)

**ア 読み物教材と同様の場面を想定する問い**

読み物資料の出来事 (男子の消しゴムを女子が拾う) を役割演技させ、「この行動についてどう思う?」と問う。

**問題意識の高まり**

消しゴムを拾うのも、お礼を言うのも、あたりまえのことだと思います。  
 ぼくたちのクラスにもあることだね。  
 その出来事から、仲間の関係がくずれるなんてことがあるのだろうか。



**課題解決へ向けた意識の高まり**

よりよい仲間関係って、どんなことだろう。話し合いたいな。

**学習課題の設定**

よりよい仲間になるために大切なことは何だろう?

**【手立て2】課題解決の工夫 (話し合いを通して学習課題について探究し、解決する)**

多面的・多角的に考え、話し合う  
 展開前段 (30分)

児童の発言を問い返す (抜粋) 教師はT、児童はA~Fで表示

〈発問〉周りの人たちの行動を考えよう

- T: 二人の仲についてうわさが回ってきたら周りの人たちはどうするだろう?
- A: 相手にしないと思います。
- B: ぼくは、直接本人をからかわないけれど、おもしろいから**そっとしておいた方がいいんじゃないか**と言う人がいると思います。(一面的)
- C: 「うわさを**広めない方がいいんじゃないの**」と言う人もいると思います。(一面的)
- T: **Bさんの「そっとしておく」とCさんの「広めない方がいい」は、意味は同じ?違う?【ウ 比較を促す問い返し】**
- D: 「そっとしておく」は、**冷やかす立場**にまわっていると思います。「広めない方がいい」は、きちんと一郎たちのことを考えているから、違うと思います。
- E: 「広めない方がいい」は、一郎たちを**気遣っている立場**だと思います。
- T: 冷やかす立場と気遣う立場があるんですね。  
**Aさんの「相手にしない」はどうですか?【イ 再考を促す問い返し】**
- F: **関わらない立場**もあると思います。

「そっとしておく」と「広めない方がいい」は一面的な解釈で終わってしまいそうだと教師は見取りました。そこで「**意味は同じか違うか**」と問い返しました。すると児童は、周りの人間の立場を児童の言葉で分類し始めました。

さらに教師は、「当事者たちを傍観する人間の立場」にも気付いてほしいという思いから、**Aの発言にもどして**問い返しました。児童は、人間関係についての考えを深めることができました。

話し合いを通して、児童の言葉で、ねらいとするものを導き出すことができました。



**学習課題の解決**

言いにくいことも言い合える信頼関係が大切だと思います。 など

**【手立て3】振り返りの工夫 (個の振り返りを全体で共有し、より深く自己を見つめる)**

自分との関わりで振り返る  
 展開後段・終末 (10分)

個の振り返りを基に共有 **ア 本時の話し合いの過程から自分を見つめている児童による発表**



今日みんなと話し合っただけで、よりよい仲間関係というのはいやいやと勇気がいりました。それが、問題をきちんと最後まで解決すること、大事だと思いました。これからは、わたしのクラスの生活でも、このようにすることがあるかもしれないけれど、全員が本当の気持ちを打ちあけられる信頼関係のあるクラスになるように、わたしも意識したいです。



I 道徳的価値について新たに感じたり考えたりしたこと II 自分を見つめていること

**自己の深まり**

**研究のまとめ**

成果 議論し、探究するプロセスを重視した授業構想に基づき、指導の工夫を行うことで、児童の発言が多くなり話し合いが活発になりました。児童は、自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりすることを通して、新たな感じ方や考え方に気付くことができました。また、児童の振り返りには、道徳的価値について新たに感じたり考えたりしたこと、自分を見つめていることなどの記述があり、自己の生き方についての考えを深めていくことにつながったと考えられます。

課題 「考え、議論する道徳」へ質的転換を図る授業改善の第一歩として、教師の問い返しにより、話し合いを活発化させることができました。今後は、児童同士で、考えを深めていけるような話し合いの進め方について、更に研究を進めていきたいと思ひます。

**実践編 1** 6学年「真海のチャレンジ－佐藤真海－」(わたしたちの道徳5、6年)の実践

教材：東京五輪招致プレゼンター、日本人女性初義足の陸上選手である佐藤真海さんの実話。19歳で足を失った挫折を乗り越え、パラリンピックなど数々の大会にチャレンジ。今もチャレンジを続けている様子が描かれている。

主題 「生きる喜び」 [ D-22 よりよく生きる喜び ]  
 ねらい 佐藤真海さんの気持ちを考え、話し合いを通して、よりよく生きようとする人間の強さや気高さを  
 感じ、夢や希望など喜びのある生き方をしようとする意欲をもつことができる。

**【手立て1】 課題設定の工夫 (話し合いを通して問題意識を高め、学習課題を設定する)**

自分との関わりで捉える  
 導入 (5分)

イ 児童の日常生活での体験に置き変える問い (児童のアンケート結果を基にして)  
 「一番うれしかったことは成功や達成という回答がありました。この体験を話してくれる人いますか?」と問う。

問題意識の高まり

- マーチングの成功が一番うれしかったです。
- でも、練習はつらいこともあったね。
- 水泳の記録が伸びたときです。
- みんないろいろな考えをもっているんだな。



課題解決へ向けた意識の高まり

うれしいことって、たくさんあるけれど、生きる喜びって何だろう。話し合いたいな。

学習課題の設定

生きる喜びって何だろう?

**【手立て2】 課題解決の工夫 (話し合いを通して学習課題について探究し、解決する)**

多面的・多角的に考え、話し合う  
 展開前段 (30分)

児童の発言を問い返す (抜粋) 教師はT、児童はA~Eで表示

〈発問〉真海さんは、新たなチャレンジ (義足をつけて陸上競技) をしていったとき、どんな気持ちだったのだろう。

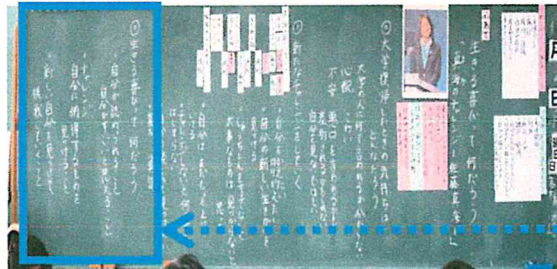
- A: 考え方を考えるという気持ち。(抽象的)
- T: もう少し詳しく話して。【A 具体を促す問い返し】
- A: ずっと人に見られたくないと思っていても何も変わらないから、気持ちを切り替えたのだと思います。(本質的)
- T: Aさんの「切り替えた」という思いを基に考えてみましょう。  
 【エ ねらいに迫る問い返し】
- B: プライドや恥ずかしいと思う心をすてて臨まないと大事なものは見つからないという思いに切り替えたのだと思います。
- C: 自分をもっと上にいけるという思いをもったのだと思います。
- D: チャレンジしないと何事も始まらないという気持ちだと思います。
- E: 変えようとして新しいことを始めたら、まだ自分にできることがあったという喜び。新たなことに挑戦する勇氣みたいなもの変わっていったのだと思います。

「考え方を変える」は、抽象的であったので、教師は具体を促す問い返しをしました。すると、次の発言には、ねらいに近づく本質的な内容も表れてきました。

「何も変わらないから、気持ちを切り替えた」は、ねらいである「よりよく生きようとする人間の強さを感じる」に迫ることができると教師は見取りました。そこで、「『切り替えた』という思いを基に考えよう」と問い返しました。すると、B~Eのような「夢や希望など喜びのある生き方」につながる内容まで導き出すことができました。その後、教師は学習課題を再度問い、課題解決につなげました。



話し合いを通して、児童の言葉で、ねらいとするものを導き出すことができました。



学習課題の解決

自分に納得するものを見つけることが、生きる喜びだと思います。 など

**【手立て3】 振り返りの工夫 (個の振り返りを全体で共有し、より深く自己を見つめる)**

自分との関わりで振り返る  
 展開後段・終末 (10分)

個の振り返りを基に共有 イ 日常生活を基に自分を見つめている児童による発表



真海さんは、つらいこと・苦しいことに負けず、新しい自分を見つけたために、たくさんの挑戦をしました。きっと、真海さんにとって、それが生きる喜びで、「生きていく」という実感があったのだと思います。私も自分の実力に見切りをつけることをためらってしまいましたが、しかし、真海さんから学んだ「生きる喜び」を実感するために、これから、どんなにつらく苦しくてもめげずにがんばっていきたいです。



ほくはこう振り返ったけれど、友達のように振り返るのもいいなあ。

I 道徳的価値について新たに感じたり考えたりしたこと II 自分を見つめていること

自己の深まり